ネットワーク

KITA-NET Network

北海道に広げていこう、環境のネットワーク

KITANET Network 会員数 MEMBER
2020年12月現在
正会員 59団体・16個人
賛助会員 49個人 13企業・団体

きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

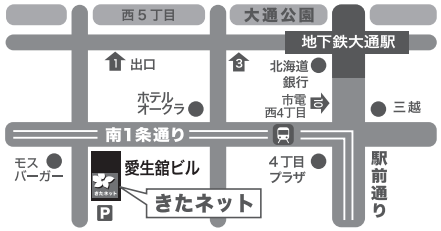
公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 / 網走市廃棄物処理協同組合 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部 / 株式会社地域環境計画北海道支社 / DCMホーマック株式会社 / 株式会社トゥリー /パタゴニア札幌北・パタゴニアアウトレット札幌南/ 株式会社プリプレス・センター / 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社 /

きたネットの活動にご協賛をいただきました。ありがとうございます。

公益財団法人日本賃貸住宅管理協会 北海道ブロック /公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会 北海道支部 / 全国賃貸管理ビジネス協会 北海道支部 /株式会社北翔 / 石上車輌株式会社 / 一般社団法人札幌空調衛生工事業協会 / 株式会社 櫻井千田 /北海道中央バス株式会社 /山本建設株式会社 / 札建工業株式会社 / しらいトランク・サポート株式会社 /NPO法人大雪山自然学校 /フォレストクリエイトタック(TACK) / DCMホーマック株式会社 /株式会社宮北都市開発 /株式会社宅建 / 株式会社セクト / アースデイ道南 / 公益社団法人全日本不動産協会 北海道本部 / コープさっぽろ組合員活動委員会 /神保順子（個人）

【NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生舘ビル5F
Tel 011-215-0148
Fax 011-215-0149
E-mail office@kitanet.org



一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。

vol.10

きたネットニュース

KITA-NET NEWS 2021/01

きたネット

きたネットWeb http://www.kitanet.org/
きたマップ http://kitamap.net
環境情報Blog http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff
きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org
ラブアース・クリーンアップin北海道 http://www.love-earth-hokkaido.jp

NPO法人
北海道市民環境ネットワーク
「きたネット」

北海道の環境保全活動を推進・支援する団体・個人・企業が参加するネットワークです。

メッセージ

MESSAGE

2021年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の先が見えない状況下、2021年がはじまりました。コロナ渦によって新たに生まれた社会問題もありますが、気候変動、格差、貧困など、すでに大きな問題になっていたことが、顕在化しています。新しい年は、私たちができることを見つめ直し、このような状況下でも機能する指針と仕組みを形にし、実践して行く年になります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

コラム
COLUMN

福祉、医療などとの連携は、自然に関わるものの役割のひとつ

きたネット理事
鈴木　玲（手稲さと川探検隊、石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク）

幼少期から中学生まで、小樽市朝里で海や川や森で遊んで育ち、大学時代はワンダーフォーゲル部と林学科で山や原野を駆け巡り、就職後も自然の中に分け入り、30代で心を病んだ時は森が癒しの空間であり、子どもと過ごす場でした。そんな大切な自然との付き合いを多くの親子にも体験してもらいたくて、2004年に「手稲さと川探検隊」を立ち上げ、都市環境の中での身近な自然体験の場を、主に自分たちが楽しめる活動として始めました。

東日本大震災の後、防潮堤や海岸林造成によって壊滅的に壊されることになった海辺の生態系を守る活動を始め、2017年からは地元地域の湿地を残したくて「石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク（しめっちネット）」を立ち上げて中間支援もしています。海辺や湿地の自然環境は貴重で大切で美味しく楽しいのに、それを私たち知っている人間が多くの人に伝えてこなかったから、たくさんの海辺や湿地の自然環境がみるみるうちに消え去りました。自らの認識と力の不足が悔やまれました。もっと多くの人に伝え、連携していかなくてはいけない！そう思いました。

現地に張り付いて真剣に保全活動等に取り組む団体は、どうしても多くの人に活動の大切さ・楽しさを伝えることや地域の環境以外の団体と連携する余裕やノウハウが不足します。中間支援組織がカバーし、団体同士の情報共有を進める必要があると考えています。

SDGsのウエディングケーキモデルにあるように、自然環境をベースにして社会も経済も存立しているものの、「自然環境を守ろう」だけでは連携し難い。他の社会課題解決や文化振興を進める団体や観光などの地域経済と手を携えて、まちづくりの一部として地域の自然を守り、利活用していくという視点で連携を進められればと思い活動しています。そして自然環境を守っていくために欠かせないのは、社会の生産的な活動の表舞台にいない福祉・医療などとの連携だと思います。私が体験したように、自然環境は心の健康や生きることに直接つながっていますから、連携は自然に関わるものの役割のひとつです。

また、きたネットでは、北海道胆振東部地震の被災地である厚真町での森づくりを始めました。自然環境をグリーンインフラと捉える動きもあります。SDGsの風を受けながら、他分野と連携して自然環境を守り育てて行きましょう。

インフォメーション

INFORMATION

12月6日、きたネットフォーラム「人と野生生物の距離2 接近NO!餌付けNO!! 人がつくる新たな環境リスク」がオンライン開催で無事終了しました。

2019年に取り上げた感染症の問題が現実となってしまった一方、人の暮らしと野生生物の住み分けが崩れ危険な接触が生じています。基調講演の齊藤慶輔獣医師、知床財団の石名坂豪氏ほか、登壇者のみなさんのご協力をいただき、ともに取り組み次の一歩を踏み出すきっかけとなる、内容の濃いフォーラムとなったと自負しております。ぜひご覧ください。（有料配信）

視聴申し込みページ
https://kitanetforum2020rokuga.peatix.com

きたネットフォーラム 録画配信開始